會澤高圧コンクリート

アスファルトも自己治癒

エピオン社と実施権契約　19年春から市場投入

會澤高圧コンクリート（會澤祥弘社長）は、次世代アスファルト舗装の研究開発を進めるデルフト大学（オランダ）のベンチャー企業であるエピオン・アスファルトB.V.と提携し、自己治癒型アスファルトの特殊舗装技術を日本に導入する。17日に同社と実施権契約を締結し、近く事業会社「エピオン・ジャパン（Epion Japan）」を設立。国内事情に合わせた技術に改良を加えた上で、来春をメドに市場に投入する。

自己治癒アスファルトとは、液状のアスファルト材を封じ込めた〈再活性カプセル〉と呼ばれる直径1～2㍉の粒子とスチールファイバーを、通常の舗装材に追加配合し道路を舗装する新工法。舗装表面に微細なクラックが入ると〈再活性カプセル〉が割れて、中のアスファルト液などが染み出し、自ら傷を癒す。

さらに車両牽引型の電磁誘導装置・インダクションヴィークルを路面に沿って走らせると、舗装に埋め込んだスチールファイバーに過電流が流れて材料を融解し、路面全体を一気に再生できる。

エピオン舗装の初期コストは、通常の舗装に比べ25％ほど高くなる見通しだが、オランダでの実験で寿命を最大2倍まで延ばせる見込みが立ったという。補修工事での交通渋滞を緩和するとともに、メンテナンス周期の延長により、維持コストを抑制できる。

また、同社はバクテリアの代謝機能を活用した自己治癒コンクリート技術の普及にも注力している。今後、コンクリートとアスファルト、両材料の自己治癒技術を融合した新たな商品開発にも取り組む考えだ。

ワザ会　ノ子　中国国内で初のCECS認定取得

ワ社

中国で押出成形セメント板・アスロックの製造販売を行っているノザワの連結子会社・野澤積水好施新型建材（瀋陽）有限公司は5月末、中国工程建設標準化協会から押出成形セメント板の材料寸法や強度、設計業務での耐風圧力、層間変位角施工における基準を定めたもので日本の建築工事標準仕様書・同解説（JASS）に相当する。

これまで、押出成形セメント板の設計や施工に関する明確な基準がないことが普及の障害になっていたが、基準が明確となり信頼度も向上したこ

標準のCECS認定（工法応用技術規定）を取得した。

同認定は、押出成形セメント板の材料寸法や強度、設計業務での耐風圧力、層間変位角施工における基準を定めたもので日本の建築工事標準仕様書・同解説（JASS）に相当する。

これまで、押出成形セメント板の設計や施工に関する明確な基準がないことが普及の障害になっていたが、基準が明確となり信頼度も向上したこ

および年数の目安などの

パイルフォーラム　第10回技術交流会「基礎工技術展」と併催

パイルフォーラムは9月27日、「建築における杭基礎の技術動向と展望」をテーマに第10回技術交流会を開く。会場は、東京・有明の東京ビッグサイト、地盤技術フォーラム2018「基礎工技術展」セミナールーム。定員150人。

杭基礎は建築構造体を安全に支える重要な役割を担ってきたが、それ自体が地中にあり、目に見

もあった。だが、性能に齟齬（そご）があると大きな不安要素となり、社会的な問題になりうることが改めて認識された。

交流会では、NHKの中村幸司解説委員が「報道から見た杭基礎問題」と題して基調講演を行い杭問題だけでなく、建築関連での色々な事象を、専門技術者には見えてこないマスコミとしての視

する。続いて各分野の技術動向と展望について第一線で活躍する有識者が話題を提供。演題と発表者は次の通り。

▽杭基礎の鉛直支持力（長尾俊昌大成建設都市基盤技術研究部構造研究室主幹研究員）＝杭の技術開発の要である鉛直支持力において、新しい基礎指針の議論を通して浮かび上がってきた現在の状況と今後の展望について幅広く述べる。

▽杭基礎の耐震問題（田村修次東京工業大学環境・社会理工学院建築学系准教授）＝大地震時の杭基礎の耐震問題のあるべき姿を明確にするとともに、いくつかの課題と新しい考え方の具体的な方向についても紹介する。

▽既製杭の施工法（木長）＝様々な技術開発により、多くの既製コンクリート杭工法が開発され普及してきたが、そのプロセスで浮かび上がった課題に対する取り組みについて紹介するとともに、今後のあるべき姿についても見解を述べる。

▽場所打ちコンクリート杭の施工法（宮本和徹日本基礎建設協会技術委員長）＝大型化、大深度化のみならず高性能化しつつある場所打ちコンクリート杭の現状に対して、どのような技術開発がなされてきているか、新たな課題についても見解を述べる。

参加申し込みに関する問い合わせ先は、パイルフォーラム（TEL03・62

インドネシアで雨水貯留実証へ　ヤマウ

ヤマウは6月29日、インドネシアの浸水被害の軽減および安定した強度が確保できるプレキャストコンクリート製品の導入・普及を目的に、国際協力機構（JICA）から同社のプレキャスト雨水貯留施設の適正性を検証する実証事業を受託した。

雨水排水施設の能力不足から雨期に浸水被害が起きている南スラウェシ州マカッサル市、およびその周辺地域に導入される。履行期間は21年1月末まで。

二次製品談話

6月18日早朝に発生した大阪北部地震の震源に近い高槻市内では最大震度6弱を観測した。エーアンドエーマテリアルは「うち市内にあ

A＆Aマテリアル社長　巻野徹

早期

エーアンは、地震一時止ま用水や電生用と別

総会

施工実績

NEW

FK

NEWス法協会（会平日本高圧社長、正会員6社）は第2回定時すべての議承認した。

NEWス法は、下杭たプレボー工法。上部